

<学校教育目標>

志高く 心豊かな生徒
主体的に学び、考える生徒
たくましく生きる生徒

<目指す学校像>

生徒が「日本一だ」と誇りをもって
卒業することができる学校

4つの実践

- 朝ごはんをしっかり食べる。
- 呼吸したら「はい」と元気よく返事をする。
- 「ありがとう」「ごめんね」と言う。
- 友だちをたたくそんなくする。

3減運動

- 減** テレビの時間を減らします。
- 減** ゲームの時間を減らします。
- 減** スマートフォン・携帯電話やパソコンに触れる時間を減らします。

スマホ使い方宣言

自分や周りの人の情報を守ります。

他人を傷つけない。

様々な気持から投稿を入手し、正確な判断をします。

インターネットにつながる機器にはウイルスやフィッシング攻撃などにも注意します。

熊谷市立熊谷東中学校生徒会

相手の気持ちを想像できる生徒に

～厳しい状況だからこそ大人も子供も人権感覚を高めましょう～

熊谷市立熊谷東中学校長 伊藤 幸男

つい先日まで本校では人権旬間を設定していたこともあり、給食時の校内放送で各学年の生徒の代表が約1週間にわたり人権作文を朗読してくれました。日頃の生活で実際に目の当たりにした事実から意見を述べる人、テレビやインターネット、新聞などのニュースを読んだり聞いたりして間接的に自分事として考えて意見を述べた人、と様々な形で人権に対する思いや考えを発表してくれました。

今年1年を通して私たちに付きまとった大きな事件は、感染症によって引き起こされた生活の大きな変化です。マスクは片時も手放せません。教室や街中のいたるところに消毒液が設置されています。買い物をするために入店する際も、自動検温器で体温の測定や消毒を義務付けられ、並ぶ際はソーシャルディスタンスを保つなどの制限が設けられています。現時点では、第3波のあらたな感染拡大が大きな脅威です。そして、それと同時に、感染を発症した当事者や家族の人権を守る私たちの心についても再確認が求められています。

感染症に係る人権問題については、集会の機会や県教育長メッセージなどを通じて何度となく注意喚起をしてきました。①**感染症には誰でも感染する可能性があり、感染した人が悪いということはない。**②**感染した人を責めるのではなく励まし、治って学校へ戻ってきたら温かく迎える。**こうした姿勢は家族内で感染が発生した場合も同様であると考えます。

現在の社会状況から判断すると、家族の方の職場や学校において感染が確認される確率は日々高まっています。注意喚起と予防行動で感染リスクを軽減することに引き続き取り組むとともに、万が一、感染が発生した場合には、医師や保健所等医療機関及び市教育委員会の指導に従い、適切な支援体制を整えながら、生徒一人一人が感染者の人権を守る言動をとれるよう日々の指導のあり方を点検している次第です。

職種によっては、長引くコロナ禍によって仕事量が著しく減ったり、または仕事を失ってしまわれたりするケースが増えてきていると言います。学校に通う子どもたちの生活はもちろん、大人の生活においてもこれまで当たり前に出ていた行動に制限が加えられた状況が継続しています。このように苦しい思いに苛まれたり社会全体が先の見えない不安に包まれていたりすると人間の心は豹変することがありうることを、私たちはこれまでの歴史から学んでいます。



しかし、たとえ一人たりとも、理不尽な人権問題で嫌な思いをしたり苦しめられたりする生徒が、熊谷東中学校から生まれぬようあらためて指導をしてまいりたいと思います。相手の気持ちを想像できる人権感覚の溢れる学校・家庭・地域の実現を目指し、保護者や地域の皆様におかれましても人権問題についてさらに関心を高めていただき、引き続き御支援、御協力をよろしくお願い申し上げます。困難な状況が続いておりますが、皆様がよき年をお迎えできるよう祈念いたしております。

<今後の学校行事について>

コロナ禍のため、冬休み明けの様々な学校行事は以下のような形にします。

- ・卒業式 (3/16) …卒業生、保護者、教員が参加する。(来賓、在校生の出席はなし)
- ・卒業を祝う会 (3/4) …全体では集まらずに実施する。出し物等の映像を各学級で視聴する。
- ・東京班別行動 (2年) …実施しない。
- ・卒業旅行 (3年) …修学旅行代替行事。3/9に実施予定。

行先は山梨県・富士急ハイランド。

※感染状況によって、変更する可能性はありますが、こういった前提で

計画を進めていきます。ご理解、ご協力をいただきますようよろしくお願いいたします。



熊谷東中歳時記（12月）

高校出前授業（2年）を初めて実施しました。

3年生に受験が迫るこの時期は、2年生にとって進学について考え始める絶好の時期でもあります。例年は、上級学校訪問を行い、グループ別に近隣の高等学校を訪れ、授業を参観したり、学校の様子を聞いたりしたことをまとめ、学年全体で情報を共有しています。

今年はこのような状況のため、訪問をとりやめ、高校の先生に来ていただき、高校の授業を実際に体験するという出前授業を2日（水）に実施しました。私立高校4校（成徳深谷、本庄第一、農大三、本庄東）の先生が教科の授業を行いました。最初は緊張していた生徒も、クイズ形式やゲームを取り入れた内容に、徐々に楽しむことができたようです。生徒の感想からは、「高校の授業に興味を持った。」「ためになった。」「他の教科も受けてみたい。」など、進路を考えるきっかけになったようです。



生命の授業（1年）を開催しました。

本校では、毎年1年生を対象に、「生命の授業」を行っています。今年も8日（火）にくまがやピンクリボンの会の方にお越しいただきました。

当日は、実際のがんの硬さを体感したり、がんサバイバーの方からのお話、若くしてがんで亡くなってしまったお子さんのお話などを聞いたり、大変深く考えさせられる内容でした。生徒の感想には、「早期発見・早期治療が大切である。」「サバイバー差別をやめさせたい。」「一日一日をしっかり生きたい。」など様々なものがあり、多くの学びがあったことがわかりました。日本人の2人に1人ががんにかかる時代です。正しい知識を持って行動できるよう、今回感じたこと、考えたことを大切にしてほしいと思います。また、保護者向け生命の授業を2月19日（金）の授業参観の前に実施します。たくさんの方の参加をお待ちしています。



人権旬間でした。

2日（火）～18日（金）は後期の人権旬間でした。これは例年よりも3日ほど長い期間です。今年は全校で集まることが難しい状況から、給食の時間に各学級の代表が一人ずつ人権作文の発表を行いました。いじめや障害者への差別といった身近なものから、アメリカの黒人差別やLGBTQに関するものまで、様々な問題についての発表がありました。様々な問題意識を持っていることがよくわかりました。中でも、「相手の立場に立って考えることが大切です。」という意見には全くその通りだと思いました。最近ではコロナウィルスの感染者に対する差別的な発言があると聞き大変驚いています。人との交流が大きく制限される中だからこそ、困っている人や助けを必要としている人に思いを馳せ、相手の意見にも耳を傾け、互いに思いやりの心を持って生活することが大切だと思います。



充実した冬休みを過ごしましょう。

本校では25日（金）から1月7日（木）までが冬休み期間となります。3年生にとっては、勉強の書き入れ時、冬期講習等で朝から晩まで塾という人もいます。いずれにしても、目前に迫った私立高校入試、その1か月後の公立高校入試に向け、悔いの残らないよう学習に力を入れてください。

また、1・2年生については、ぜひ、2021年に向けた目標を立ててください。「一年の計は元旦にあり。一日の計は朝にあり。」といえます。最初にしっかりと計画することの大切さを説いた言葉です。勉強のこと、部活動のこと、生活のこと、趣味のこと…どんなことでもかまいません。一年後にそれが達成できていたかどうか見直せるよう、何かに書き残しておいてもよいかもしれません。

今年の漢字は「密」だそうです。3か月の臨時休校などコロナウィルスに振り回された一年になってしまいました。来年はそうした困難はあるけれど、一生懸命何かに取り組んで、成長する一年にしたいものですね。

